

3万人のキャンパスで オンリーワンな 自分を見つけた。 関大愛ネットワーク、 東京から発信中！

関西大学東京センター

かなほ
西尾 奏穂

関西大学 文学部

日本史・文化遺産学専修 2018年卒

1995年生まれ、兵庫県出身 東洋女子高校卒

生まれて間もなく東京へ転居。

都内の女子高から関大に入学。

体育会野球部に入部し、4年間マネージャーとして務め、

近年の神宮大会出場など野球部の大躍進を陰で支える。

2018年新卒で学校法人関西大学に就職、

関西大学東京センター配属により

4年の大阪生活から東京にリターン。



「関大大好き！」な人が多いといわれる関大生。その母校への愛を、仕事にする道があります。

それは、関大の「中の人」——大学職員になること！

関大の首都圏の活動拠点「関西大学東京センター」の職員になって2年目の西尾奏穂さんは、そんな一人です。

関大生ではレアな東京育ち。都内の女子高時代に関大に惚れ込んで、第一志望で入学したという西尾さん。

大学野球界で屈指の快進撃が続く関大体育会野球部でマネージャーとして自分の個を確立した4年間、

そして今、東京で「関大大好き」の輪を広げる活動の日々を伺いました。

私が勤務する「関西大学東京センター」は、ひとことで言うと、駅の案内所みたいなインフォメーションオフィス。千里山の部署を全部ギュッと集めた感じです。大学と首都圏企業とのパイプ役や、東京で活躍するOBOGのネットワーク作り、首都圏で就活をする学生の支援を行っています。コンシェルジュ的でも受け身ではなく、自発的に期待を超えるサービスやアイデアにチャレンジしてきている部署です。大学事務ってルーティンなイメージを持たれるかもしれませんが、ここでは自由な工夫や発想が求められていて、それを形にする過程も刺激的です。

在京OBOGが関大と関わってくれてこそ、イベントで交流の輪が広がったり就活支援のご協力もいただけますし、学生も東京

センターを知らなければOBOGの協力を活用できないので、両方への働きかけがすごく大事なんです。証明書発行などでたまたま来られた方に、短時間で興味を持ってもらい、いかにファンになっていただくか。東京センターを介した縁が後にビジネスや採用につながったりするので、何か発信する時の方法やビジュアル一つにも、気を遣っています。

体育会野球部のマネージャーとして入部したのは、42年ぶりに関大が明治神宮野球大会に再び咲いた年で、熱い4年間でした。就活では多くの企業を周りましたが、結局「関大の絆」が忘れがたくて今の職場に導かれた気がします。

「これぞ総合大学ね！」一目惚れした千里山キャンパス あやしい関西弁の女子マネージャー、誕生！

父親の影響で大河ドラマや水戸黄門を欠かさず見る、いわゆる”歴女”で、野球大好きな女子高生でした。関西出身の母と甲子園に野球を観に行った時、「日本史を勉強したいなら、関西の大学も見てみたら？」と言われたんですね。数校周った中で、関大の正門を見た瞬間「ここに行きたい！」もう一目惚れでした。早くに目標を決めた私は、関大野球部のブログをモチベー

ションに受験勉強に励み、見事合格。両親の心配をよそに、大阪での一人暮らし&念願の野球部マネージャー生活が始まりました！東京育ちでも両親は関西出身なので、関西弁の雰囲気はつかんでいるつもりでした。でも自信满满それっぽく話していたら「どこの人？」って言われて（笑）。よく「なんでやねん！って言うてみて」とか温かくイジられていました。



体育会の世界は、ハードな「社会」のミニチュア キャラの薄い私に存在意義はあるの？

監督・コーチをはじめ、約200名の部員が在籍する関大野球部では、マネージャーの仕事は多岐にわたります。部の運営はもちろん、OBOG会、大学職員や関係団体との折衝なども行います。他大学との練習試合は、マネージャーがスケジュールを組んで交渉することもあるんですよ。広報も重要な仕事で、選手の活躍を広くPRする役割も担っています。

そんなハードな環境に飛び込んで、入部したての頃は、部の中での自分の存在意義に悩んだこともありました。マネージャーだけでも10人いて、リーダー的役割が得意な人や、面倒見がよくて叱り上手な人がどんどん活躍する中で、私は人に注意するのも苦手で何事もハッキリ言えない。でもそのうち、後輩のちょっとした悩みを聞いてあげてこっそり解決するとか、みんなと逆の「緩衝材みたいな役割」が私なのかな、と気づいて、吹っ切れました。実際に後で同期に、「西尾がいなかったらたぶん瓦解

してたよ」と言われて。自己認識は合っていたなと思います。

短い夏休みや年末年始以外はほぼ毎日、部員とスタッフで顔を合わせた4年間でした。何か悩みがあって話すとしたら、家族か彼らか、というほどの深いつながりですね。今も、私にとって野球部は「第二の家」みたいな感じです。



大人とのコミュニケーション力を磨いた4年間 「関大愛」を認めて生きる？ その手があったか！

私の就活ですが、「野球のような感動」を生む企業に行きたくて、最初は映画やテーマパークなどのエンタテインメント業界を中心に活動しました。でも、狭き門です。そんな時「それほどの野球愛があるなら、関大で働くのがいいんじゃない？」って周囲の人に言われたんです。「えっ!？」その瞬間、全てが一本の線でつながった気がしました。関大を志望するきっかけからもう「関大愛」だったし、関大と深く関わるマネージャーのスキルが直接活かせるのも関大じゃないか!って。

野球部の神宮球場での試合で、よく他大学の人に「関大の卒業生って関大好きすぎないか」って言われていました（笑）。関大ほど熱い想いの人が押し寄せることは滅多にないと聞いてから「関大っていいな、自分も卒業したら母校のために何か

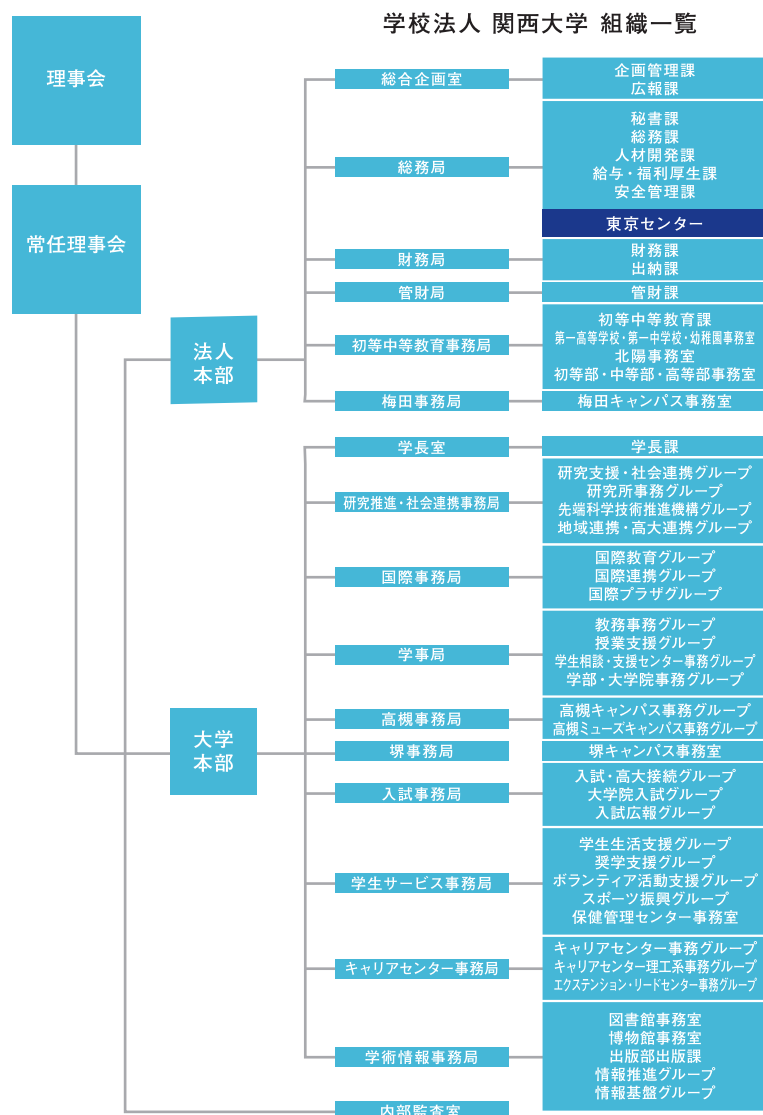
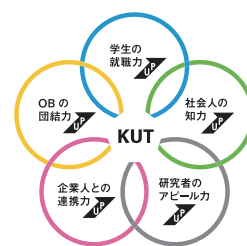
やりたいな」と思っていた気がします。入学前の「関大一目惚れ」からずっとつながってきた感情ですね。

学生の皆さんには、ぜひ大学の外でも「大人との対話」や「社会との関わり」の場を積極的に作ってほしいと思います。

私は、部活を通して、様々な立場の社会人と接する機会がありました。一筋縄ではいかない交渉、予想外の指摘、逆に厚く支援いただくこともあり、全てが貴重な経験でした。おかげで、コミュ力が鍛えられたし、引っ込み思案を克服できたんです。

マネージャーとして、やるべきこと・できることを自分で見つけてチームを支えた経験が、大学職員として働く今、とても役に立っています。

マンモス関大は事務組織もビッグ! 東京センターって、何をしてるの？



社会と関大、 校友と関大をつなぐ フレキシブルな アンテナ部署

関西大学東京センター（KUT）は、関西大学の首都圏における拠点として2003年に開設されました。首都圏の企業や官庁との情報交流や、アカデミックな活動の場としての機能にとどまらず、就活生を含む学生、卒業生、一般の方など様々な方にご利用いただいています。

東京駅隣接という利便性を活かし、就活生への手厚いサポートや、学生・卒業生の交流などに力を注いでいます。

- ◎首都圏企業・中央省庁との窓口、在京マスコミ対応
- ◎千里山キャリアセンター連動の就職活動支援
- ◎卒業生交流イベントやビジネスセミナーなどの実施
- ◎入試広報（首都圏の高校、予備校向け学校説明会）
- ◎大学院、ロースクール、会計専門職大学院の入試

東京駅一望の好立地、 関大生の首都圏拠点 関西大学東京センター

丸の内の一等地、JR東京駅直結の35階建てビルの9階にあります。パソコンや休憩スペースを提供するほか、各種証明書・学割証の発行など、首都圏での就職活動をサポートしています。更衣室や仮眠スペースもありますので、早朝に高速バスで東京に着いた時など、ぜひ利用してください。



<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>

やりがいは、人のつながりを作れること 就活生さん、不安だったらぜひ私と話してください

ここで校友同士や首都圏ならではの出会いがあって、東京センターを介したコミュニケーションで仲よくなっていく。そんなネットワークの広がりを見られるのが今のやりがいです。

とある先輩から神宮大会の時に「西尾さんをハブに、新しい東京ネットワークができつつあるね」と言っていたことがあって、とてもうれしかったです。今はSNSがあるので私は卒業後も何年上の先輩でもつながりを保っていますし、たまたま東京センターに立ち寄った方が元野球部と知って、SNSでお声がけしたら神宮に来てくださった例もあります。自分がこのオフィスにいることで関大の輪が広がることが、何よりうれしいです。部活で自分なりの存在価値を知った感動に似ています。



「あなたにとって関西大学とは？」

関大は私のベースというか、人として大事なことを教えてくれた場だと思います。私は高校までおとなしくて一人じゃ何もできないタイプでしたが、入学を機に一人暮らしを始めたこと、体育会系の世界に居場所を見つけたことなどで、成長できました。未熟で周りに迷惑もかけましたけど、それでも見捨てないで色々教えてもらえる環境が関大にはありました。

「関大はモテるか」ですか？関大だからモテるっていうことは、多分ないです（笑）。

でも、あのでっかいキャンパスに3万もの人がいて、絶対誰かしら価値観の合う人がいる。だから、モテるというより「オンリーワンに出会える」ってことじゃないでしょうか。

それこそ「関大の多様性」に意味があるんだと思います。

（撮影・取材：関西大学東京センターにて）

KUT OBOG Interviewについて

関大東京センターのご利用者で、首都圏でご活躍中のOBOGの方々に登場いただき、学生時代のエピソードから現在の活動・ビジョン等をご紹介します特集です。

● 関西大学東京センター公式マスコット、忍者の“ほなくん”。おもな任務は、館内やSNSなどで広報活動のお手伝いをする。時には取材にも参加します。



関西大学東京センター

100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー9階
TEL: (03) 3211-1670 (代) FAX: (03) 3211-1671
<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>



公式 Twitter



公式 Facebook



LINE スタンプ